

Lesson 12. コウホート研究

§ A. コウホート研究

分析疫学
介入の有無による分類

- 観察研究 Observational Study
 - コウホート研究 Cohort Study
 - 患者対照研究 Case Control Study
- 介入研究 Interventional Study
 - 臨床試験 Clinical Trial
 - 野外試験 Field Trial

分析疫学
観察の方向による分類

- 前向き研究 Prospective Study
 - コウホート研究、臨床試験、野外試験
- 後向き研究 Retrospective Study
 - 既往コウホート研究、患者対照研究

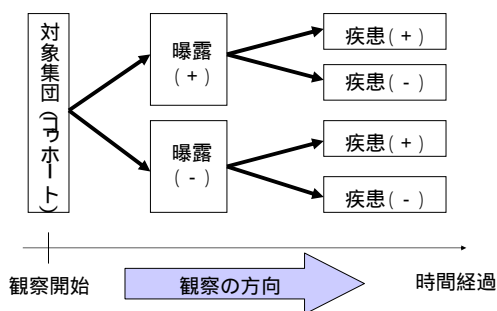
コウホート研究の特徴

- まれな曝露要因で効果的
- まれな疾患には不向き
- 複数疾患の同時評価可能
- 罹患率の算定が可能
- 研究の疑問は「何が起ころのか」

コウホート研究の手順

1. 研究対象集団(コウホート)を確定する。
2. 観察や測定(質問票、検査、など)により曝露群(要因保有群)と非曝露群を同定する。
3. 一定期間その集団を追跡する。
4. 再び観察・測定により疾患などの有無を調べる。
5. 曝露と疾患(結果)の関係を分析する。

コウホート研究のデザイン



コウホート研究の結果

		疾患あり	疾患なし	合計
		最初に同定	曝露あり	
曝露なし				c+d

コウホート研究の結果(続き)

		追跡後に判定		合計	疾患の罹患率
		疾患あり	疾患なし		
最初に同定	曝露あり	a	b	a+b	$\frac{a}{a+b}$
	曝露なし	c	d	c+d	$\frac{c}{c+d}$

コウホート研究の例

	CHDあり	CHDなし	合計	1,000人 当たり 罹患率
	喫煙	84	2,916	3,000
非喫煙	87	4,913	5,000	17.4
